

平成25年度 第2回 経営協議会議事要録

日 時：平成25年6月21日（金）15時00分から16時30分

場 所：如水会館1階「コンファレンスルーム」

出席者：【委 員】山内学長

天野委員、北尾委員、大塚委員、中島委員、新井委員、安田委員

大芝委員、落合委員、小川委員、町村委員、林委員

【陪席者】渡邊監事、二村監事、高橋副学長

議事に先立ち、学長より前回（平成25年度第1回）の議事要録について確認を行った。

審議事項1. 平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

高橋副学長より、平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書について、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

審議事項2. 平成24年度財務諸表について

小川理事より、平成24年度財務諸表について、資料3に基づく説明の後、渡邊監事より平成24年度監事監査報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、審議の過程において、以下の質疑応答があった。

- 一橋講堂については、利便性を高めるため、無線 LAN ネットワークを早急に構築したほうがよいのではないか。
- 本年7月から使用できるよう整備中である。

報告事項1. 平成25年度会計監査人の選任について

小川理事より、平成25年度会計監査人の選任について、資料4に基づき報告があった。

報告事項2. 一般社団法人一橋大学コラボレーション・センターの平成24年度事業・決算報告書について

小川理事より、一般社団法人一橋大学コラボレーション・センターの平成24年度事業・決算報告書について、資料5に基づき報告があった。

なお、審議の過程において、以下の質疑応答があった。

- 一橋シニア・エグゼクティブ・プログラムは、大学の看板となり得るプログラムであると思われるが、本プログラムの対象者や、参加後の企業からのフィードバックなどについてご教示願いたい。
- 執行役員を対象としたプログラムであり、商学研究科が実施していたプログラムをコラボレーション・センター設置に伴い移行したもので、参加企業も固定しているため、参加

企業と意見交換をしながらプログラムを運営している。参加企業からは高い評価を得ており、当初より参加企業数が増えている。

- 一橋シニア・エグゼクティブ・プログラムは、参加企業以外に認知されておらず、広報活動が足りないのではないか。
- 「非営利組織のマネジメント力強化研修」は、広島県からの要請に基づき実施しているものか。
- 広島県と締結した包括連携協定に基づき、県の要請により実施しており、地域貢献という意味合いが強いものである。

報告事項 3. 平成 25 年度学部入学者数等について

落合理事より、平成 25 年度学部入学者数等について、資料 6 に基づき報告があった。

報告事項 4. 平成 25 年度大学院入学者数等について

落合理事より、平成 25 年度大学院入学者数等について、資料 7 に基づき報告があった。

なお、審議の過程において、以下の質疑応答があった。

- 法科大学院も含めて、修士課程への自大学からの進学者が少ないというのは、深刻な問題ではないか。全体として、合格率が低いのかまたは志願者が少ないのかといった点や、他大学への進学状況等のデータをお示し願いたい。
- 本学の法学部は大学院進学率が高いが、本学の法科大学院のレベルが高いため必ずしも進学できるとは限らないことから、他大学の法科大学院に進学する者も多い。また、企業側が、依然として文系については修士修了者を望まないという側面もあり、学生も就職状況等を勘案し、早く就職したいという気持ちがあるのではないか。大学として、これからは修士の学位を取得して社会に出ていくようなスタイルを作りたいと考えている。
- 日本の大学院は、特に社会科学系大学院において、国際的評価が低い状況にあるが、自大学出身の学生さえも進学しない大学院は問題があるということになる。企業側の意識が変わるような取組みを大学側が考えなければいけない。
- 研究大学強化促進事業においても、候補となっている大学のうち、社会科学系の総合大学は一橋大学のみである。こうした現状を踏まえ、社会科学系の研究者養成のみならず、社会科学系大学院の拡充をもっと訴えていく必要があるのではないか。

その他

- 千代田キャンパスの宿泊施設については、一橋大学関係者のみでなく外部の者も宿泊できるようにしていただきたい。